ヒトエグサ養殖指導

諸見里　聡・仲間　勲

要　約

- 北中城村地先海域でヒトエグサの試験養殖を100枚の網を使用して行った。
- 採苗時期は10月初旬が良好で、9月の網はラン藻が多かった。
- 網一枚当り一回につき16.5kg～20kg（湿重量）で、シーズン中の総収穫量は1,500kg（湿重量）であった。
- ノリ摘み機による収穫作業は効率的であった。

1. 目　的

沖縄本島地区においては、現在5地区でヒトエグサの養殖が行われており、技術的にはあまり問題点はない。しかし、場所によって採苗の時期、レベル、成長、質に違いがあり普及にはいる場合には現地に適応した養殖手法が必要である。今回、沖縄本島東海域においては初めてのヒトエグサ養殖であり、漁場の適性、採苗、本張り時期等を明らかにする。

2. 場　所

北中城村奥武島地先海域（図1）

3. 使用材料

養殖網（1.4×18m、クレモナ）、鉄筋（5分筋、1.5m）、ノリ摘み取り機

4. 方　法

ⓐ採　苗　養殖場内に9か所を選定し採苗場所とする。網は5枚重ねでピン張りにした。採苗網の高さは、59年4月に調査した時の天然ヒトエグサの着生レベルを基準とした。（図2、図3）

網の設置は9月下旬、10月上旬、11月上旬の3回に分けて実施した。

ⓑ本張り　採苗した網を1枚ごとに展開する。網はたるみを持たせて設置した。

5. 結　果

ⓐ採苗時期　採苗網の設置は第1回目9月25日、第2回目10月8日、第3回目は11月8日に行った。第1回目と第2回目の網はほぼ同時期に肉眼で確認できる着生状況になった。11月中旬にはA3、B3の網、つづいてC2の網にヒトエグサの着生が見られた。第3回の網はどの地点も着生がかなりおそく、最も早い所でB3の12月中旬であった。第1回の網はラン藻の着生が多く見られた。（図5、6）

ⓑ本　張　第1回目の本張は12月20日、A3とB3の第1回、第2回の網を展開した。A3の網は被度3～8、藻長10～25mm、B3の網は被度5～9、藻長10～25mmであった。60年1月9日には第2回本張り（A2、B2、C2計20枚）を行った。（図4）

ⓒ収　穫　収穫は1月16日から開始した。一回当り一網で16.5～20kg（湿重量）であった。藻

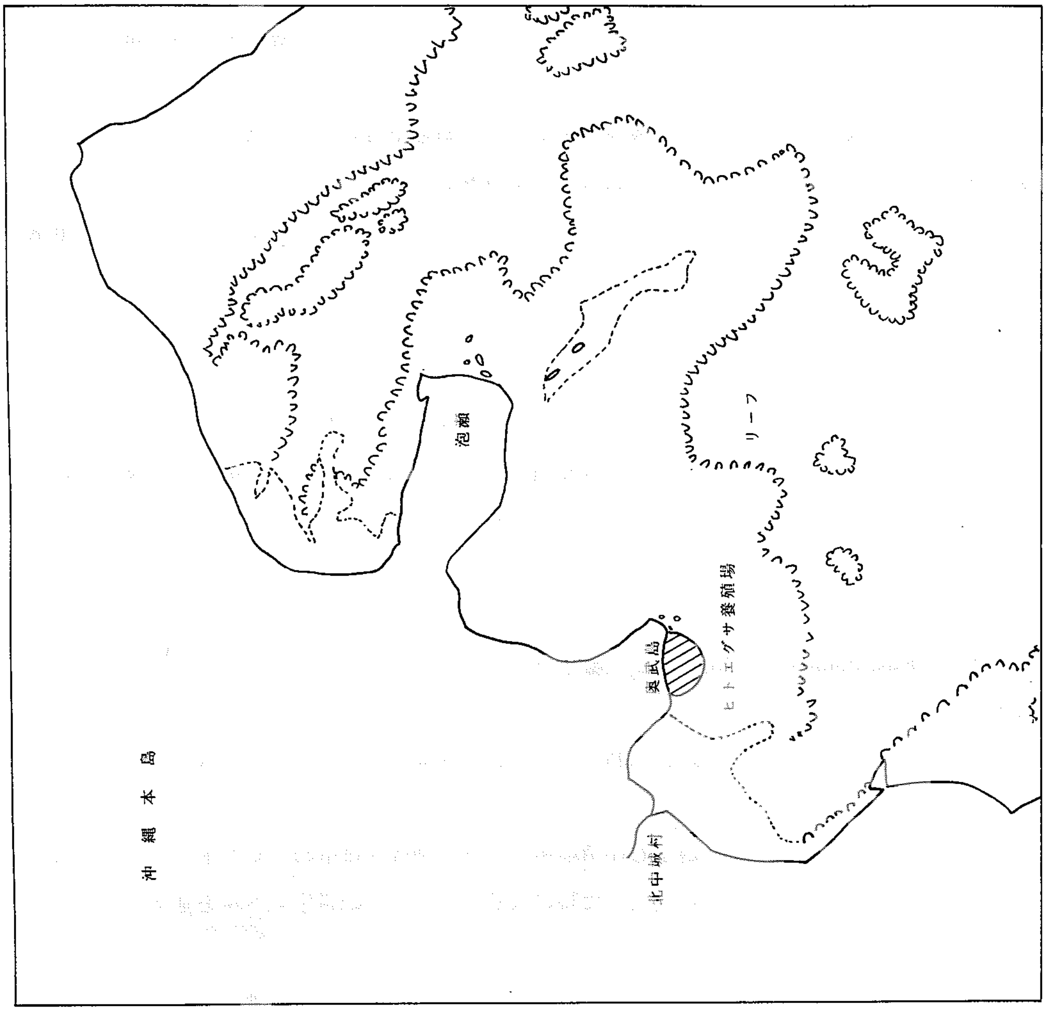
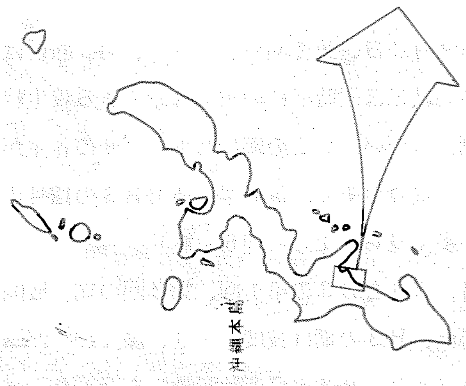


図1 ヒトエグサ養殖場位置



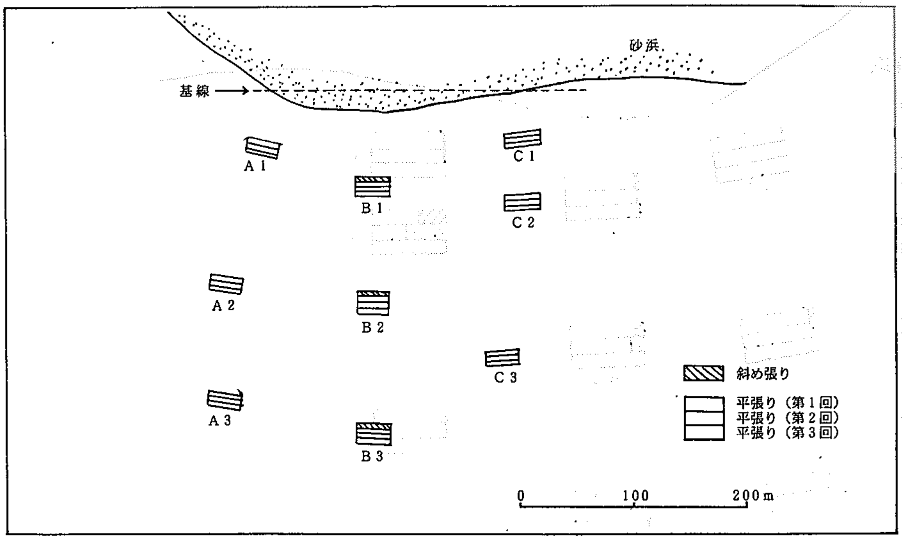


図２　採苗網設置状況

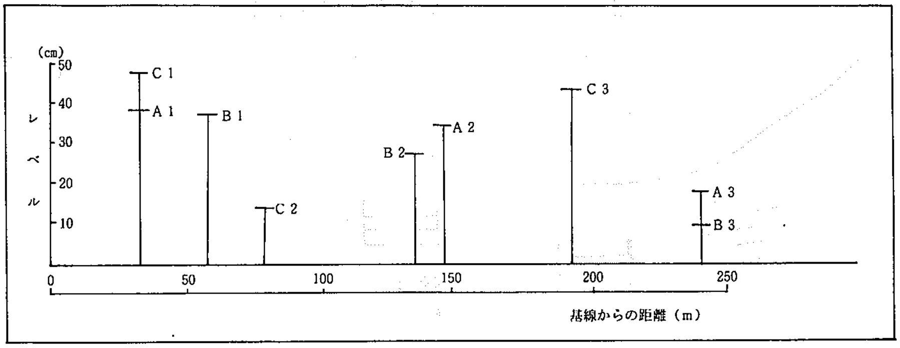


図３　採苗網のレベルと基盤からの距離

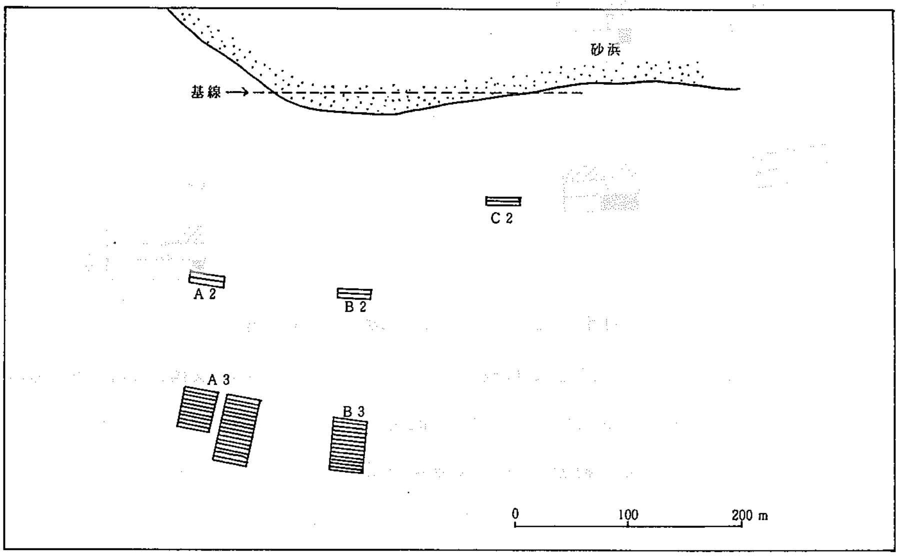


図４　本張り網設置状況

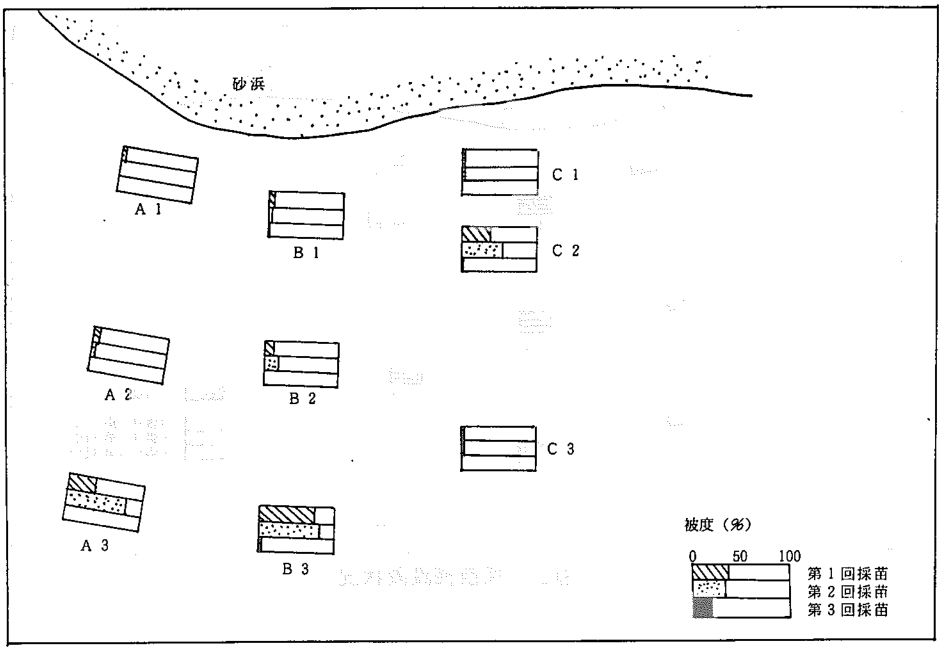


図5　ヒトエグサの被度（12月15日）

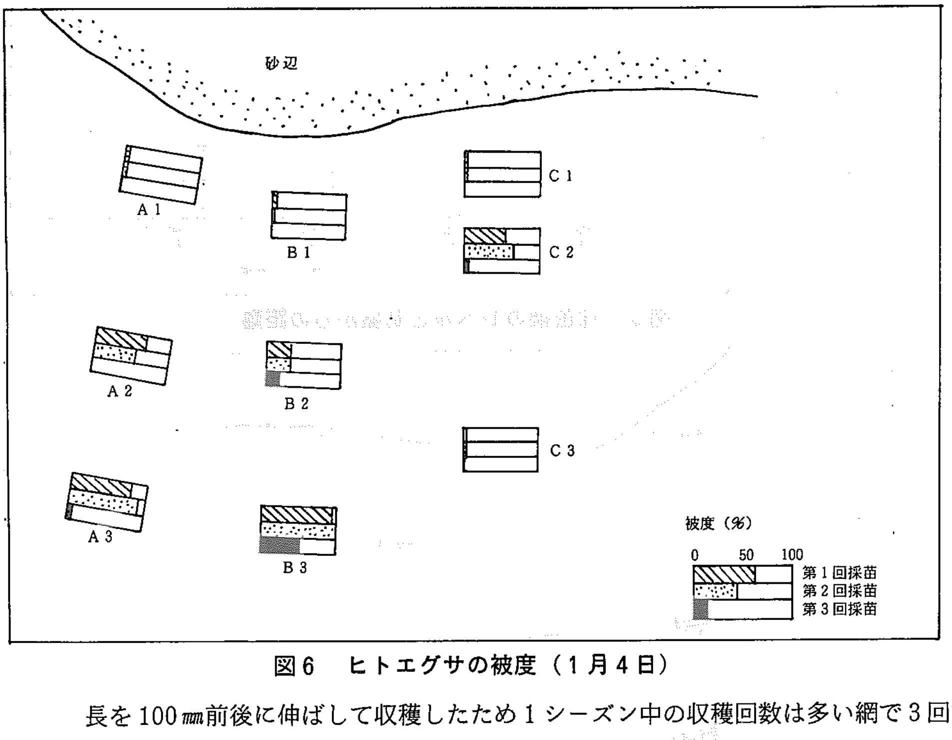


図6　ヒトエグサの被度（1月4日）

長を100㎜前後に伸ばして収穫したため1シーズン中の収穫回数は多い網で3回であった。手摘みによる収穫では一枚の網を4人がかりで30分～40分かかる。ノリ摘み機を使用すると一枚の網を5分で収穫することができた。今回の試験養殖によるヒトエグサの総収穫量は1,500㎏（湿重量）であった。

網の汚れは浜側の網に少し汚れが見られる程度で、その他はほとんど汚れがなくシ

ーズン中には一度も網の汚れ落としはしなかった。

本漁場で養殖されたヒトエグサは少し厚めで、緑色が濃く、乾燥品にした場合良質の製品となる。しかし、雑藻が混じるため、それを取り除くのに手間がかかった。

6. 考　　察

ⓐ採　苗　今回の試験養殖では10月８日の採苗網が良好であり、９月の網はラン藻が多く着生した。ラン藻は着生しやすい漁場と恩納村のようにほとんど着生しない漁場とがあるが、本漁場ではかなり着生しやすく、特に種が薄く着生した場合には空白部分で繁茂するので採苗時期に注意する必要がある。今年度の採苗は各地とも１～２週間の遅れが見られ、伊江島の一部や宮古、八重山ではほとんど収穫できなかった。本海域では今年度は10月８日の採苗で良い結果が得られたが、10月１日前後を目安に採苗を始めるのが適当と思われる。種場はＡ３とＢ３付近が良いがＡ２やＢ２付近でも張り出しベルを下げれば良い結果が得られると思われる。

ⓑ本張り　今回は悪戯による網の被害でＡ２、Ｂ２、Ｃ２の網が収穫できなかったが、本張り漁場として、Ａ２とＢ２から沖合は十分利用できるものと思われる。干出は４時間程度としたが、干出時間が短い程成長が早く、雑草の着生状況も顕著な違いは認められないので、種付けを良好にすれば干出時間を減らしたほうがよいのであろう。

ⓒ収　穫　１網の一回当りの収穫量は16.5～20㎏で恩納地区の30㎏前後に比較すると低い数字である。これは、種の着生密度が低かったのが原因と思われる。ノリ摘み機による収穫はかなり効率的で今後養殖規模を拡大する場合には導入する必要がある。

7. 今後の課題

① 良質な種網の生産（雑藻、被度）

② 養殖網管理の徹底

③ 研究グループの育成、強化

④ 洗浄、乾燥等の処理技術の改善、導入

最後に、試験養殖にあたりご指導いただいた漁業者センター専門技術員の瀬底正武氏、新垣盛敬氏、並びに有益なご助言をいただいた恩納漁協の吉山氏に対し厚く御礼申し上げます。

参 考 文 献

1. 漁業者センター（1983）：ヒトエグサ養殖の手引き

2. 奥原哲夫（1981）：ヒトエグサの生産から製品化まで

『昭和55年度水産業改良普及報告書』

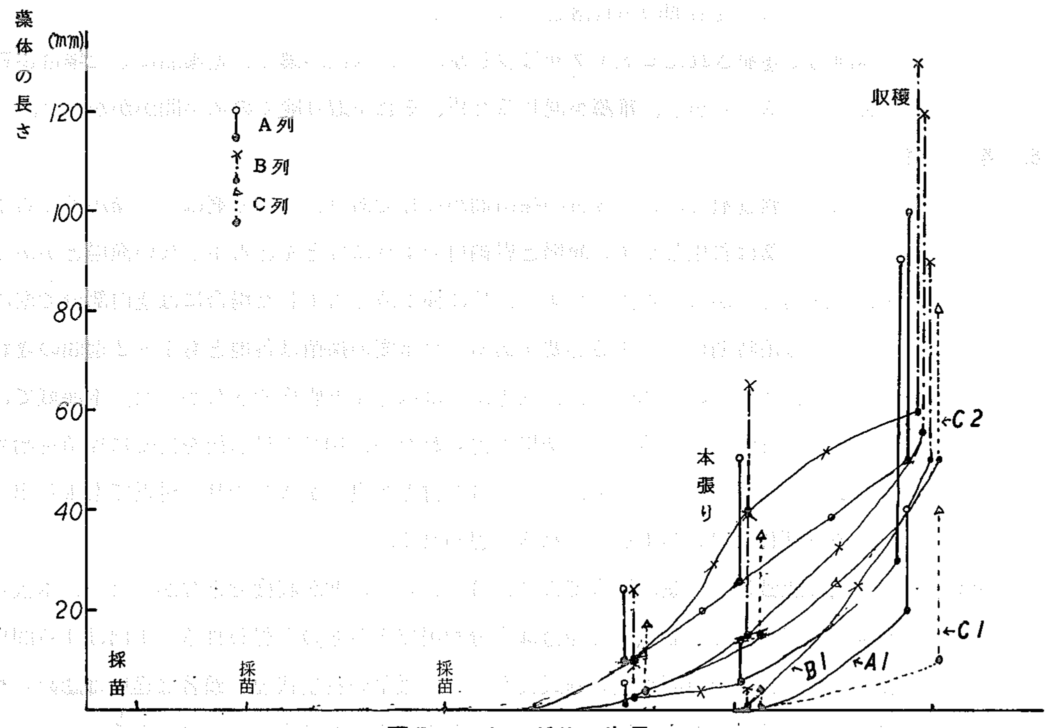
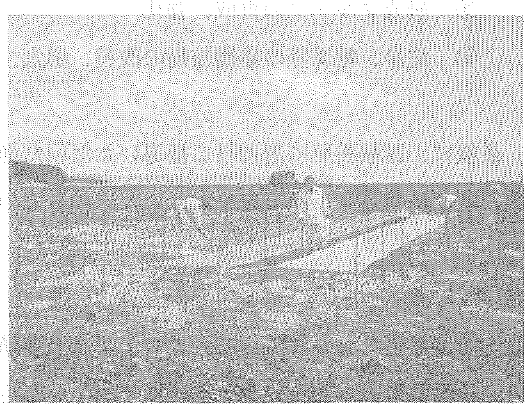
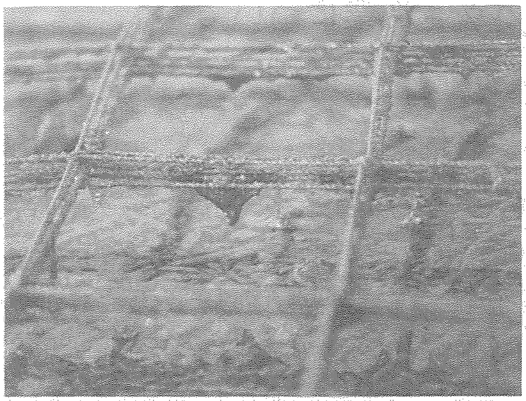


図7　ヒトエグサの生長

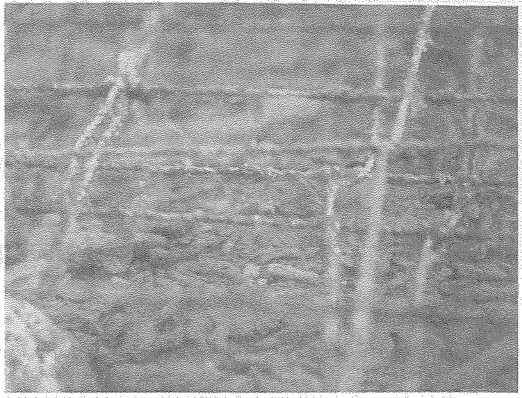
養殖場の全景



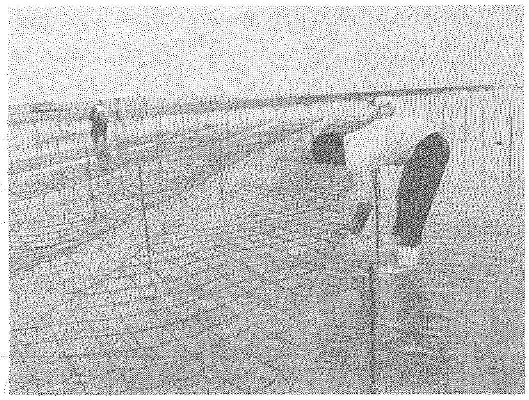
種網の設置作業

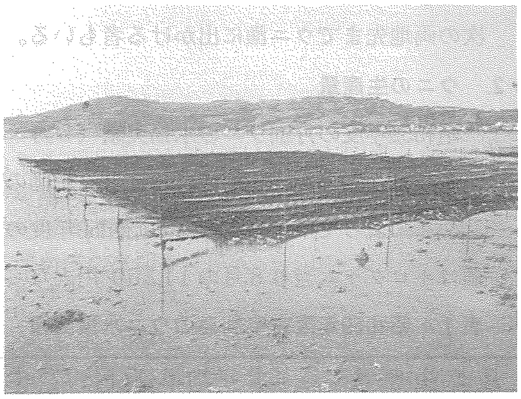


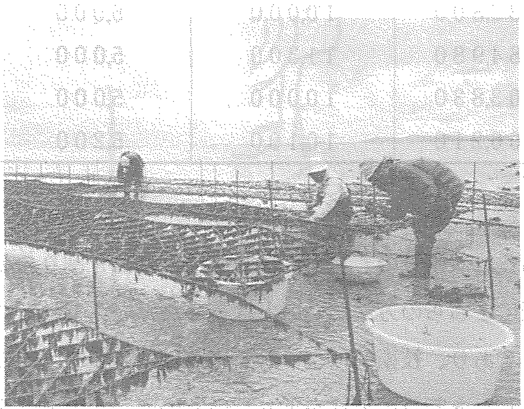
ラン藻の着生状況



種苗着生状況







手摘みによる収穫作業

ノリ摘み機による収穫作業